

# 水道事業に関する市民アンケート 集計報告書（広域化分）

令和6年1月

長野市上下水道局

問 14	現在、水道事業が抱える以下の課題について知っていましたか？	1
問 15	問 14 の課題の解決に向け、水道基盤強化のため国が水道事業の広域化を推進しており、長野市も千曲市、坂城町、上田市、長野県企業局と水道事業の広域化を検討していることを知っていましたか？	3
問 16	添付資料についてご理解いただけましたか？	5
問 17	水道事業を広域化した場合、メリットだと思うことは何ですか？	6
問 18	水道事業を広域化した場合、不安・課題に思うことは何ですか？	9
問 19	水道事業広域化に対してどのように考えますか？	1 2
	見方、考え方別の集計	1 5

問 14 現在、水道事業が抱える以下の課題について知っていましたか？(複数回答可)

「施設の老朽化に伴う修繕・更新費用の増加」(63.9%)が約6割と最も多い。次に、「人口減少に伴う料金収入の減少」(42.5%)、「知らなかった」(27.5%)と続いている。

【利用している水道別】

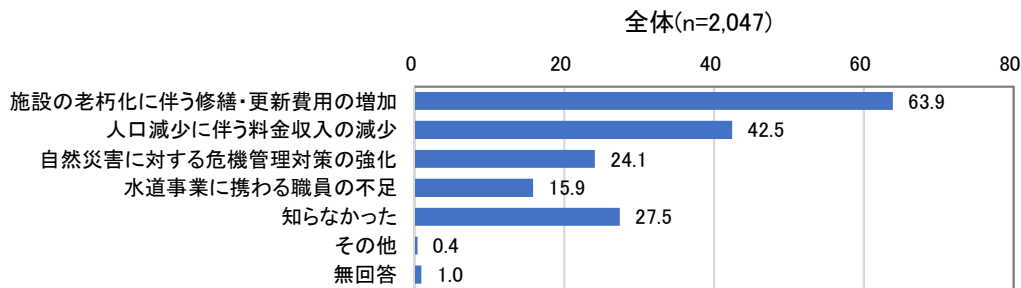
市営水道、県営水道とも、「施設の老朽化に伴う修繕・更新費用の増加」が6割を超え、最も多く、同様の傾向にあるといえる。

【年代別集計】

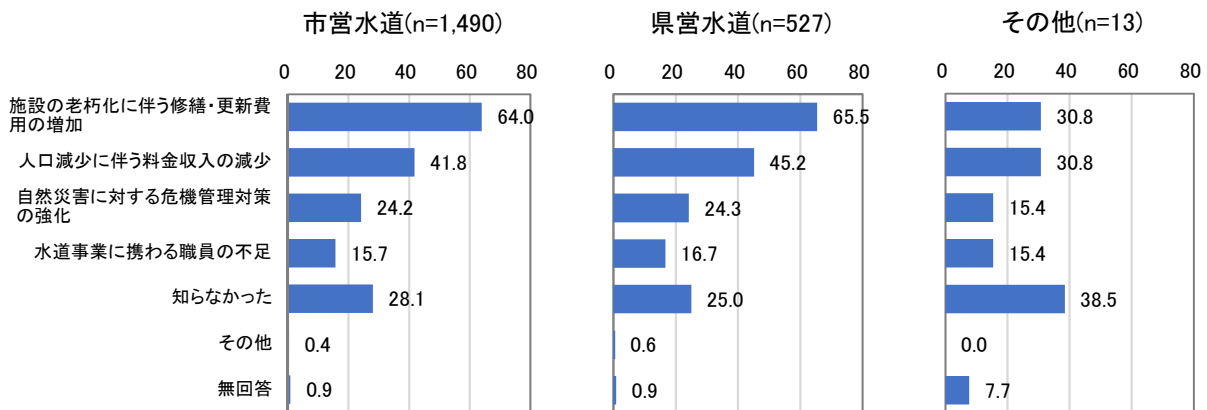
「施設の老朽化に伴う修繕・更新費用の増加」は、40代以上では6割を超え、最も高い。一方、「知らなかった」は、10代から30代で4割以上となる。

【水道水の水源についての認知別集計】

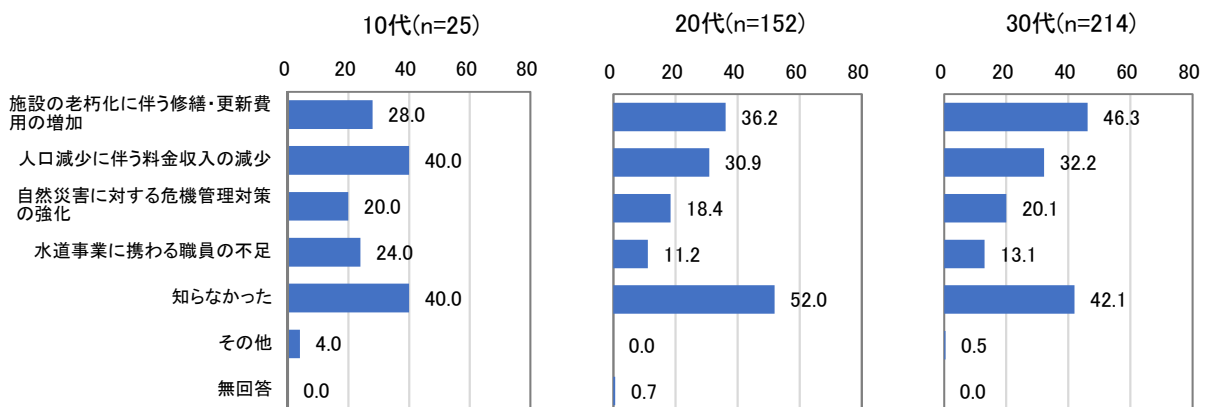
水源を「知っている」では、課題を「知らなかった」(14.2%)が約1割となり、他のいずれの課題の回答割合は、水源を「知らない」よりも高い。一方、水源を「知らない」では、「施設の老朽化に伴う修繕・更新費用の増加」(55.1%)が約6割と最も多い。次に、課題を「知らなかった」(36.9%)が約4割と、2番目に多い。

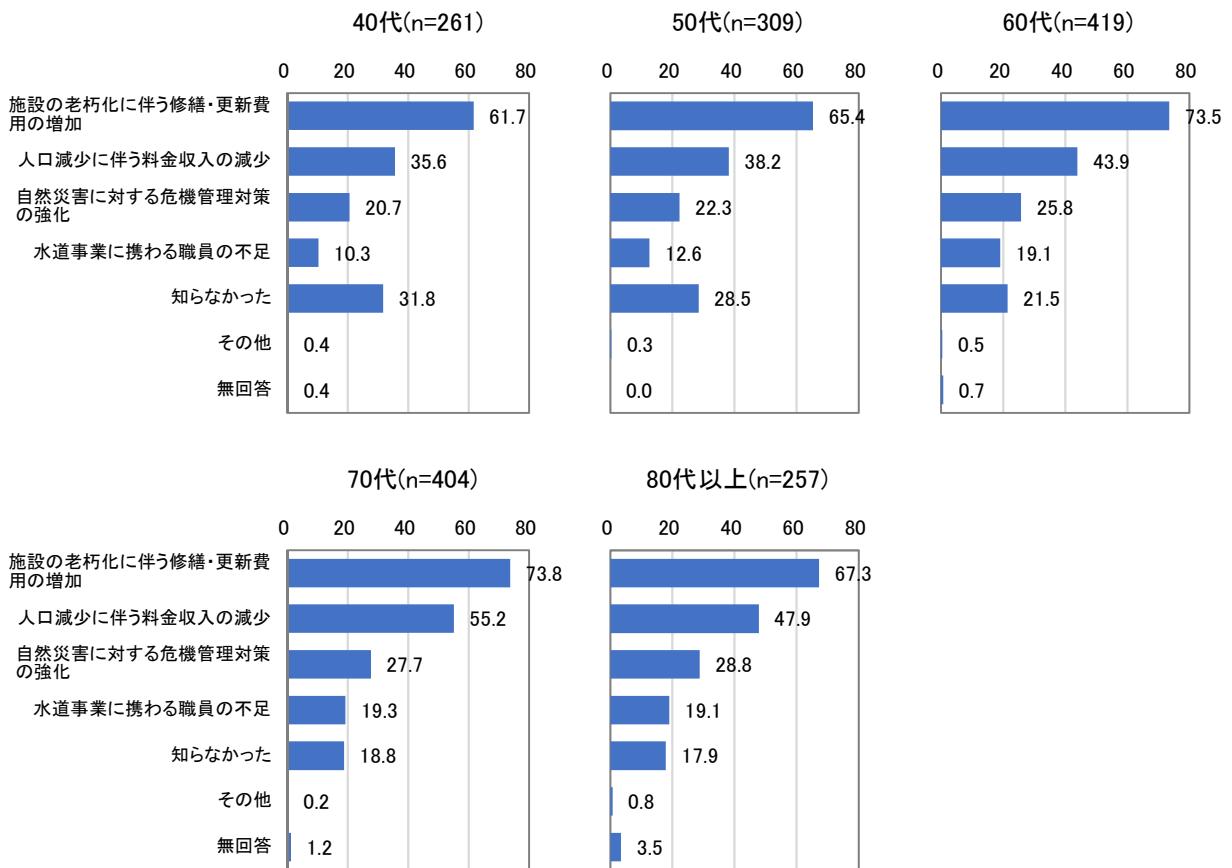


【利用している水道別集計】

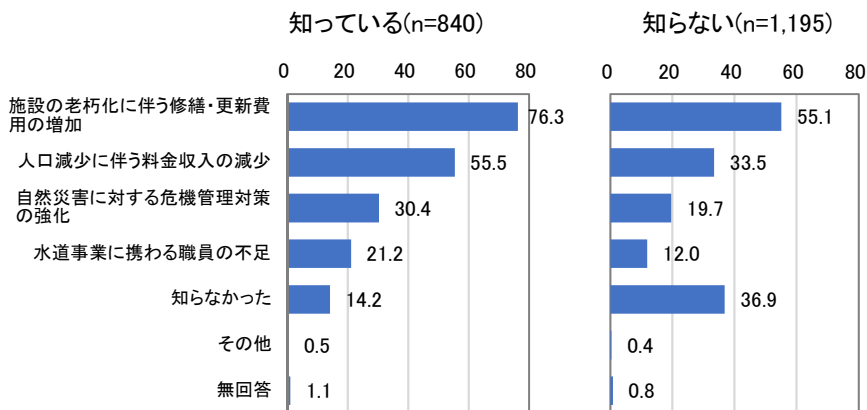


【年代別集計】





【水道水の水源についての認知別集計】



問 15 問 14 の課題の解決に向け、水道基盤強化のため国が水道事業の広域化を推進しており、長野市も千曲市、坂城町、上田市、長野県企業局と水道事業の広域化を検討していることを知っていましたか？（1つお選びください）

「知らなかった」（69.5%）が約7割と最も多い。次に、「何となく知っていた、聞いたことはあった」（21.5%）、「知っていた」（8.2%）と続いている。

#### 【利用している水道別】

市営水道、県営水道とも、「知らなかった」が6割を超え、最も多い。次に、「何となく知っていた、聞いたことはあった」、「知っていた」と続いている。「知っていた」については、市営水道（7.0%）は県営水道（12.0%）よりもやや低い割合となる。

#### 【年代別集計】

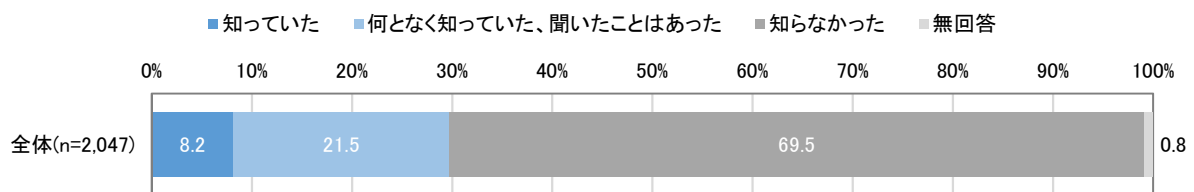
いずれの年代でも「知らなかった」が最も多くなる。「知っていた」、「何となく知っていた、聞いたことはあった」の合計をみると、20代で約1割と最も低くなっている。30代から50代で約2割、10代、60代で約3割、70代以上で約4割となる。

#### 【世帯人数別集計】

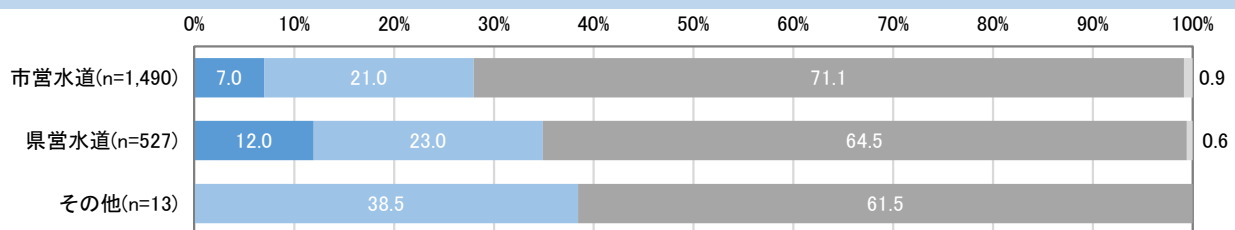
いずれの世帯人数でも、「知らなかった」が約7割と、最も多くなる。2人世帯、3人世帯では、「知っていた」、「何となく知っていた、聞いたことはあった」の合計が3割以上となり、他よりもやや割合が高くなる。

#### 【水道水の水源についての認知別集計】

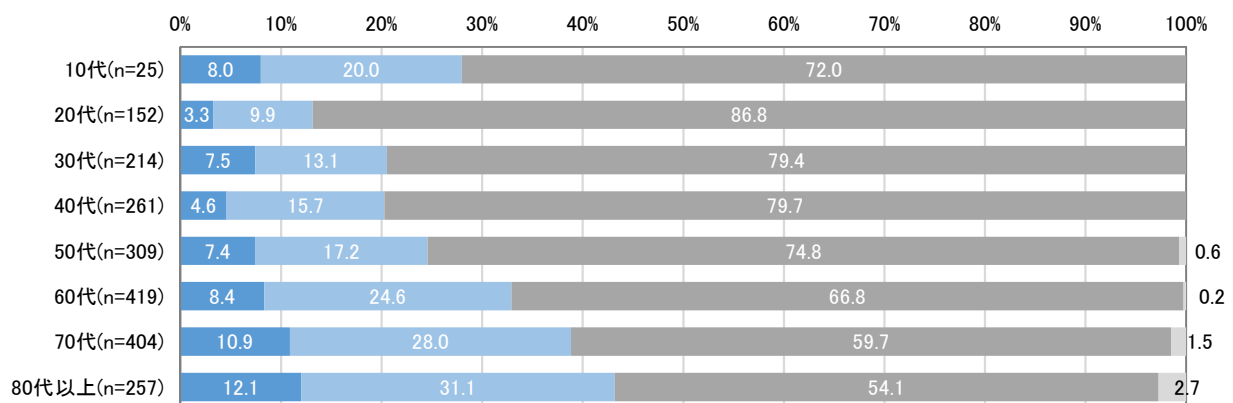
水源を「知っている」では、「知らない」（55.2%）が5割台となり、「知っていた」、「何となく知っていた、聞いたことはあった」の合計が4割を超えている。一方、水源を「知らない」では、「知らない」（79.9%）が約8割となる。



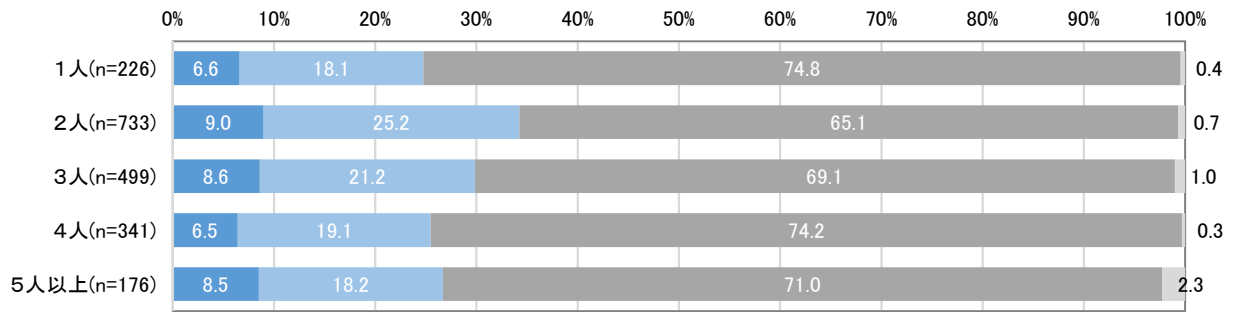
#### 【利用している水道別集計】



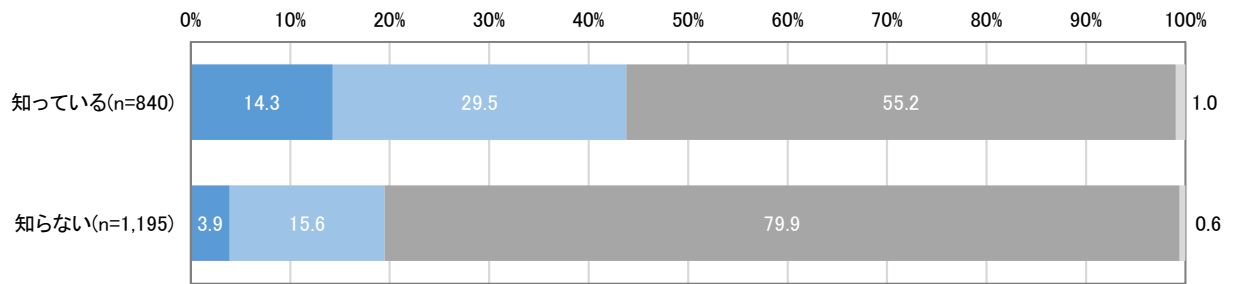
#### 【年代別集計】



【世帯人数別集計】



【水道水の水源についての認知別集計】

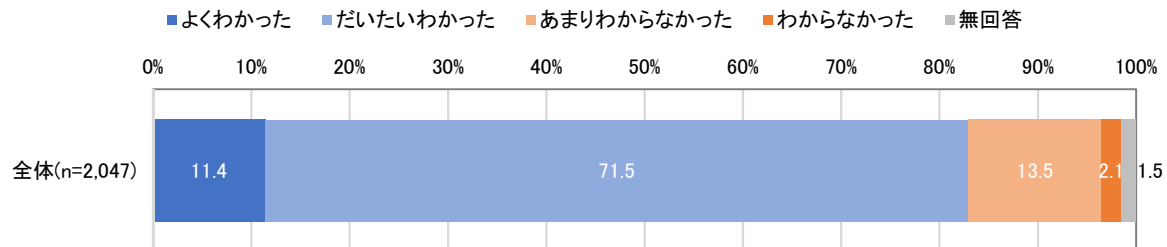


## 問 16 添付資料についてご理解いただけましたか？（1つお選びください）

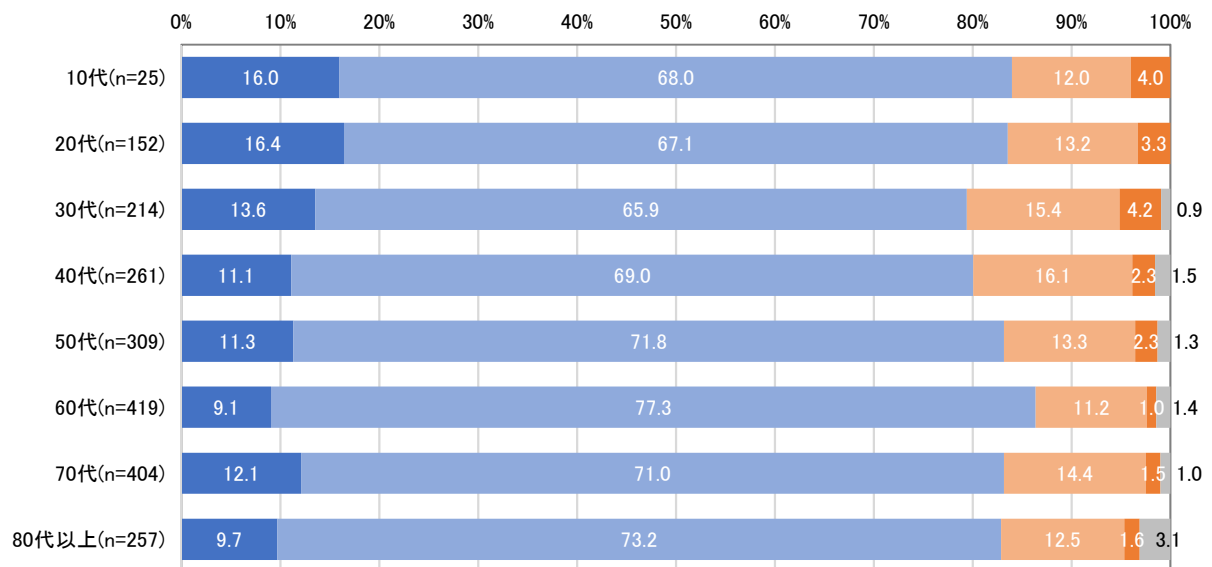
「だいたいわかった」(71.5%) が約 7 割と最も多い。次に、「あまりわからなかった」(13.5%)、「よくわかった」(11.4%) と続いている。

## 【年代別集計】

いずれの年代も、「だいたいわかった」が最も多い。「よくわかった」、「だいたいわかった」の合計でみると、30代、40代でやや低いものの、いずれの年代でも約8割以上となる。



## 【年代別集計】



問17 水道事業を広域化した場合、メリットだと思うことは何ですか？（複数回答可）

「水道料金の値上幅の抑制」(58.4%)が約6割と最も多い。次に、「水道設備の更新や耐震化が進む」(40.7%)、「国の補助金を活用することができる」(36.2%)、「施設の統廃合などにより各事業体で個別経営を続けるよりも維持管理・投資が効率化される」(36.0%)と続いている。

【利用している水道別】

市営水道、県営水道とも、「水道料金の値上幅の抑制」が約6割と最も多く、ほぼ同様の傾向にあるといえる。

【年代別集計】

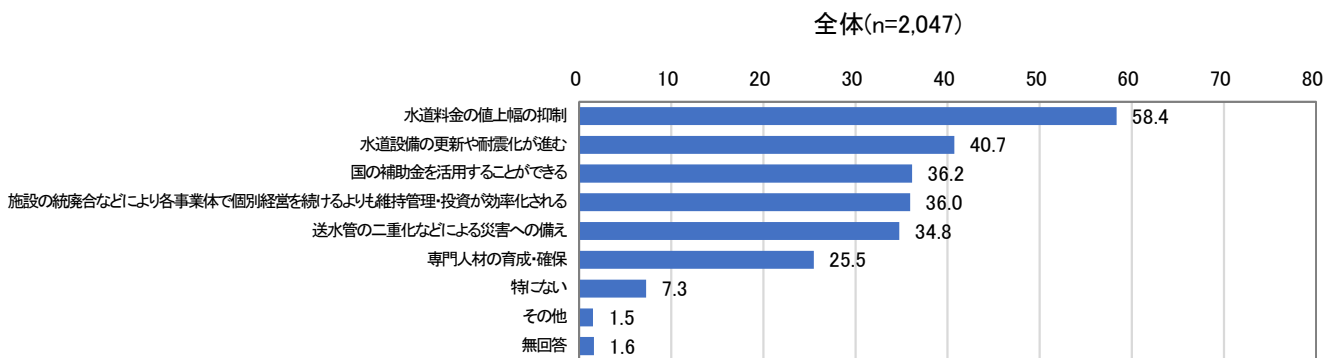
いずれの年代でも、「水道料金の値上幅の抑制」が最も多い。次に、10代から60代では、「水道設備の更新や耐震化が進む」が、70代では、「施設の統廃合などにより各事業体で個別経営を続けるよりも維持管理・投資が効率化される」が、80代以上では、「国の補助金を活用することができる」が2番目に多い。

【世帯人数別集計】

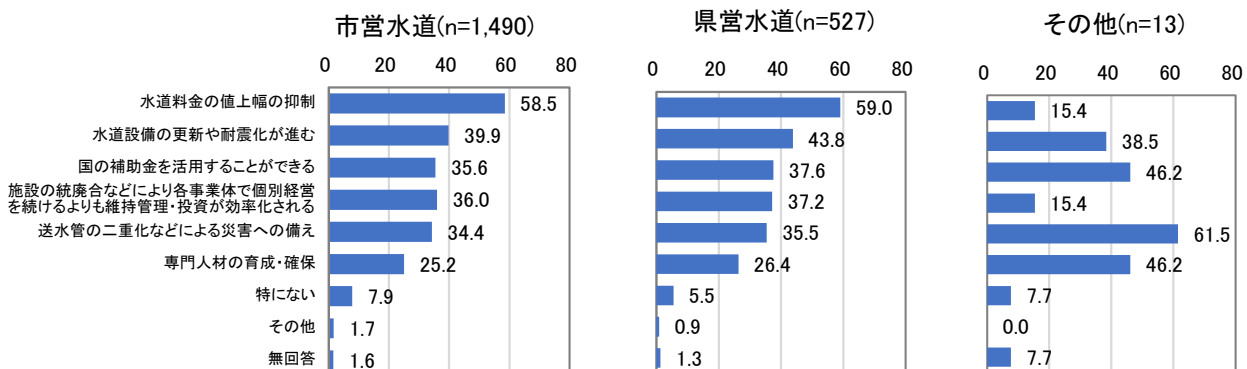
いずれの世帯人数でも、「水道料金の値上幅の抑制」が最も多い。次に、1人世帯から4人世帯では、「水道設備の更新や耐震化が進む」が、5人以上世帯では、「送水管の二重化などによる災害への備え」が2番目に多い。

【水道水の水源についての認知別集計】

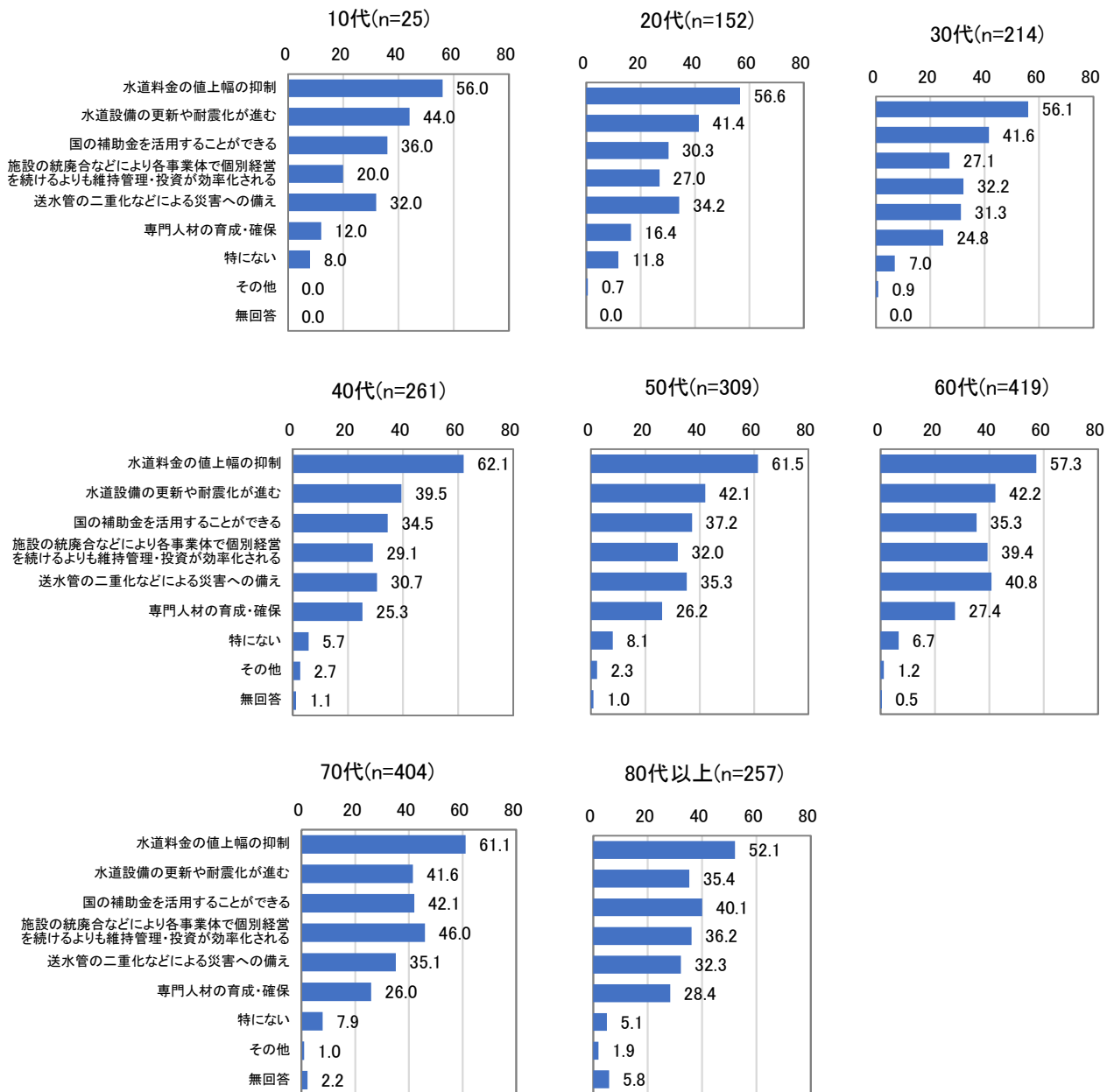
水源を「知っている」、「知らない」とも、「水道料金の値上幅の抑制」が最も多い回答となる。



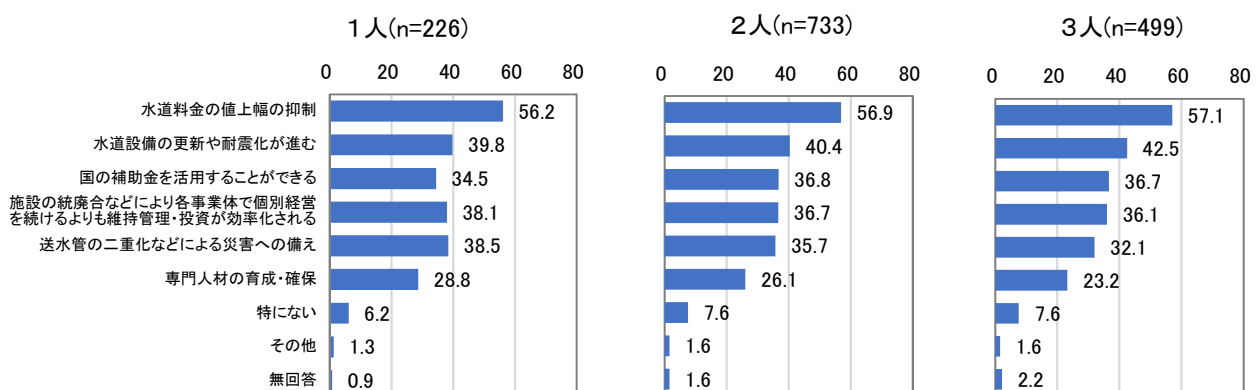
【利用している水道別集計】



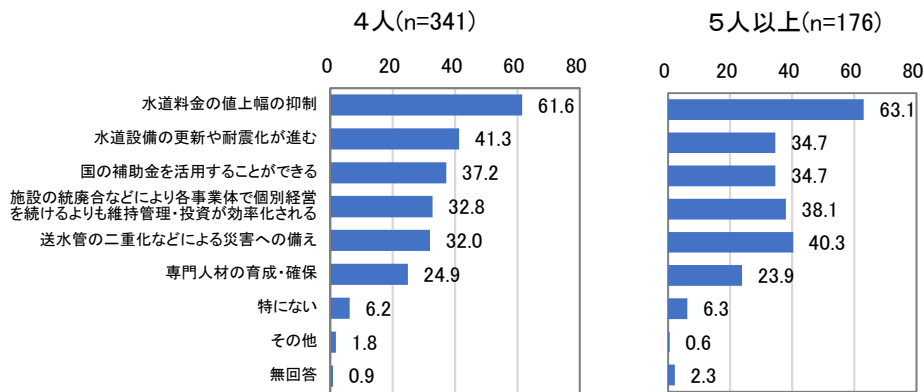
## 【年代別集計】



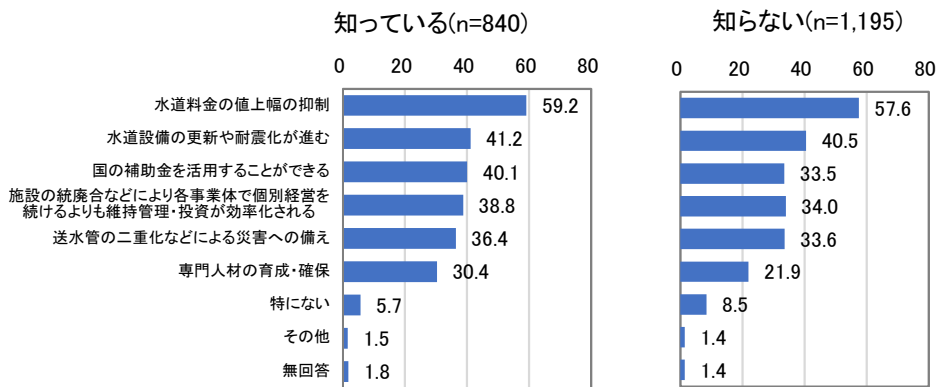
## 【世帯人数別集計】







【水道水の水源についての認知別集計】



### 問18 水道事業を広域化した場合、不安・課題に思うことは何ですか？（複数回答可）

「料金値上幅が本当に抑制されるか」（52.7%）が約5割と最も多い。次に、「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」（40.7%）、「水質などの安全性」（34.6%）と続いている。

#### 【利用している水道別】

市営水道、県営水道とも、「料金値上幅が本当に抑制されるか」が約5割と最も多く、ほぼ同様の傾向にあるといえる。

#### 【年代別集計】

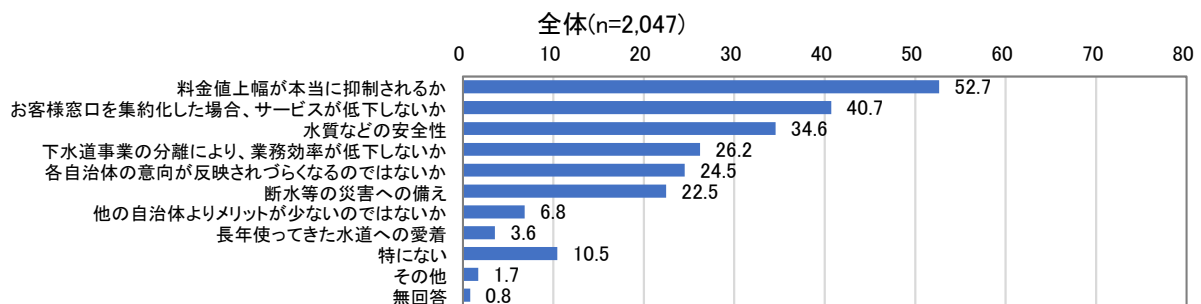
10代から70代では、「料金値上幅が本当に抑制されるか」が、80代では、「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」が最も多くなっている。「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」の回答でみると、10代から30代では約3割、40代から50代で約4割、60代以上で約5割と、年代が高くなるにつれ、割合も高い。

#### 【世帯人数別集計】

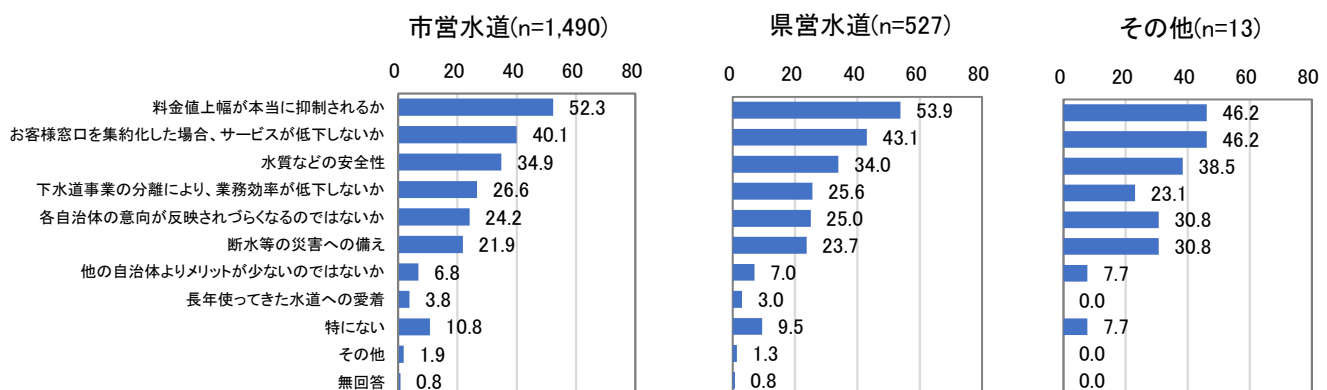
いずれの世帯人数でも、「料金値上幅が本当に抑制されるか」が、最も多い。

#### 【水道水の水源についての認知別集計】

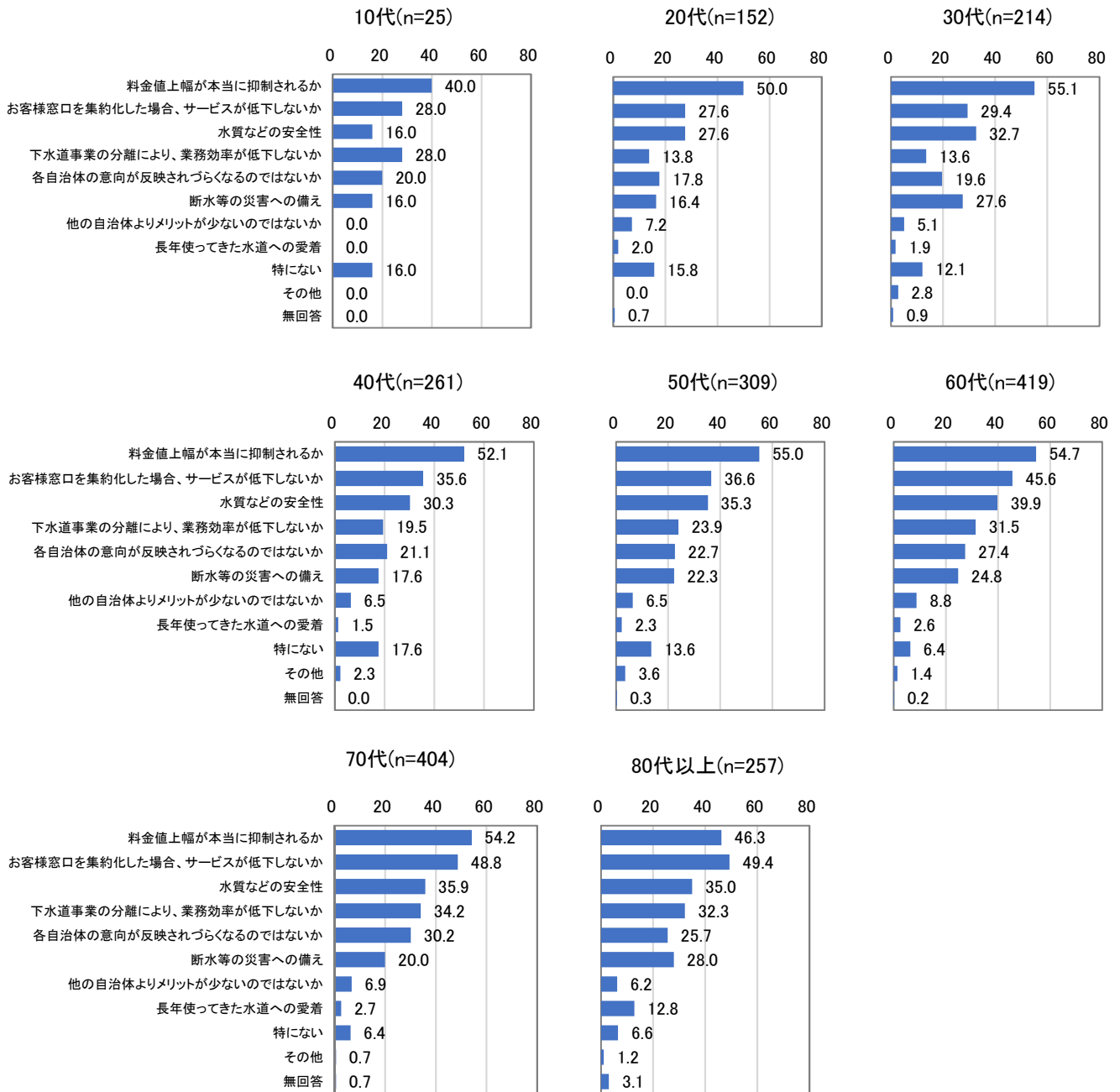
水源を「知っている」、「知らない」とも、「料金値上幅が本当に抑制されるか」が、最も多い。「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」の回答でみると、水源を「知っている」では46.9%、水源を「知らない」では36.5%と、割合にやや差がある。



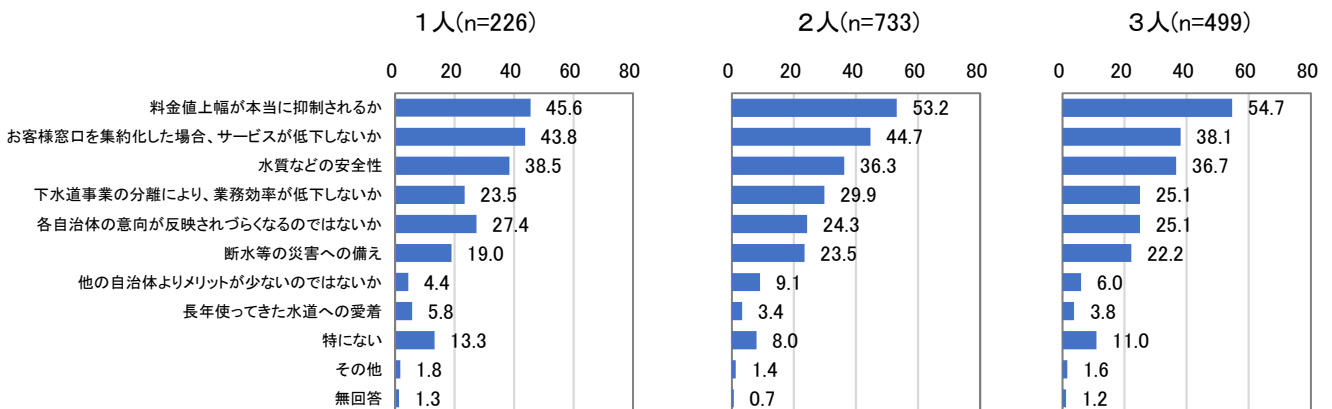
#### 【利用している水道別集計】

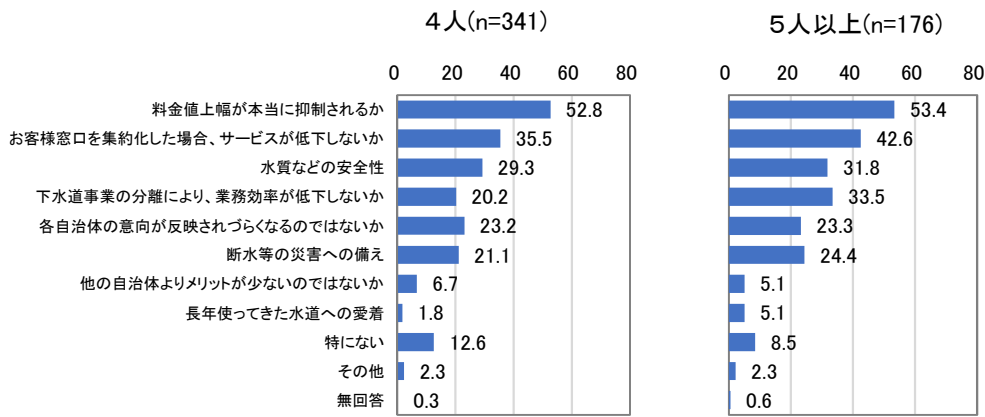


【年代別集計】

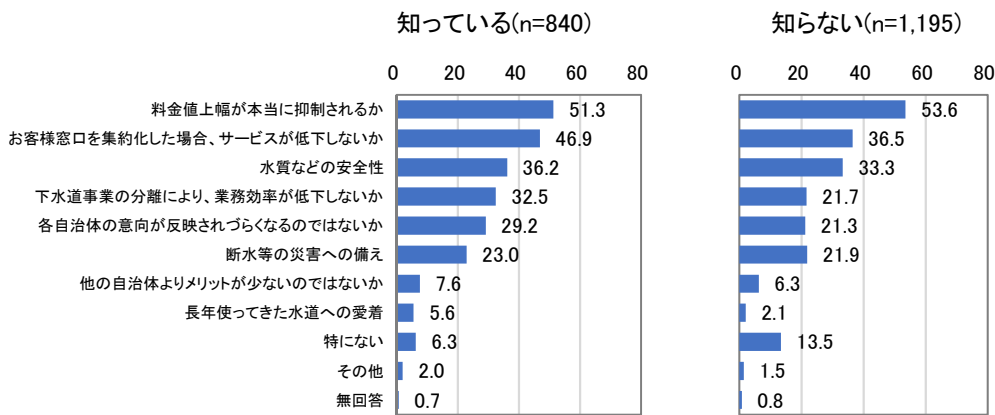


【世帯人数別集計】





【水道水の水源についての認知別集計】



問 19 水道事業広域化に対してどのように考えますか？（1つお選びください）

「どちらかといえば取り組むべき」(46.4%)が約5割と最も多い。次に、「取り組むべき」(26.3%)、「なんとも言えない、わからない」(22.8%)と続いている。「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は72.7%となる。一方、「取り組むべきではない」(1.4%)、「どちらかといえば取り組むべきでない」(2.1%)の合計は3.5%となる。

【利用している水道別】

市営水道、県営水道とも、「どちらかといえば取り組むべき」が最も多い。「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は、市営水道で72.1%、県営水道で74.4%となる。

【年代別集計】

「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は、10代、80代以上で6割台となり、他の年代では7割台となる。

【世帯人数別集計】

いずれの世帯人数でも「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は7割台となる。

【水道水の水源についての認知別集計】

水源を「知っている」、「知らない」とも、「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は、7割台となる。

【老朽化による断水の発生についての認知別集計】

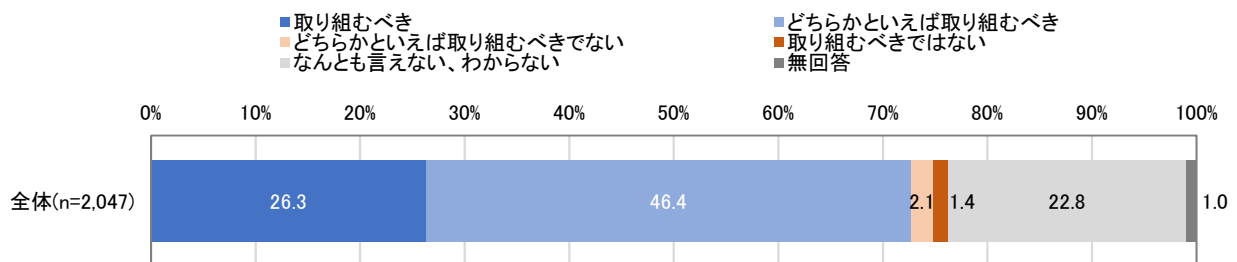
水源を「知っている」、「知らない」とも、「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は7割台となる。

【広域化のメリット別集計】

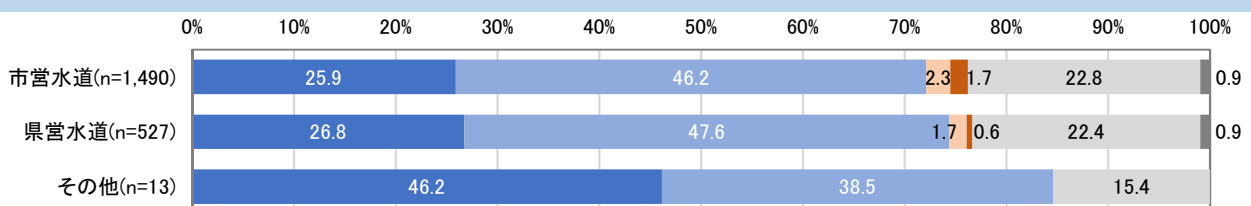
「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は、特にないで20.1%、その他で45.2%となり、それ以外の項目では約8割となる。

【広域化への不安・課題別集計】

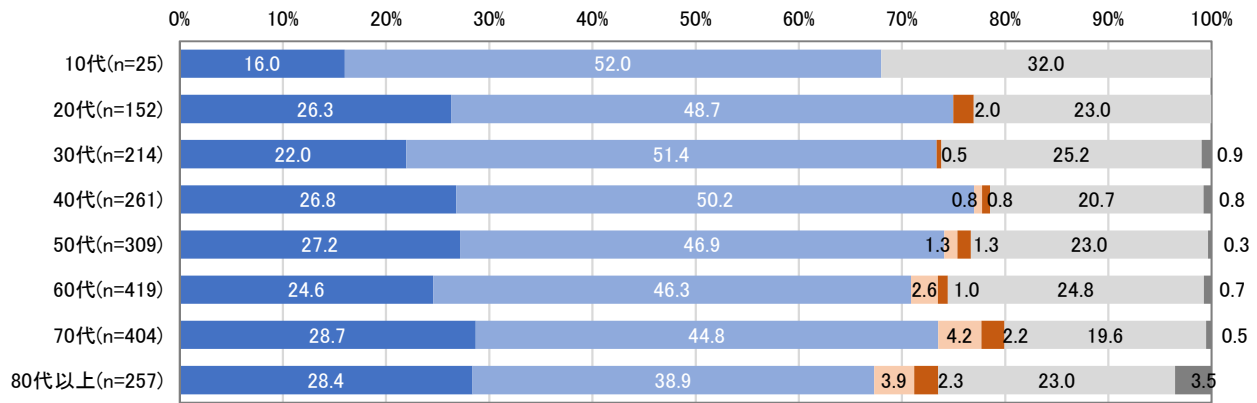
「取り組むべき」、「どちらかといえば取り組むべき」の合計は、他の自治体よりメリットが少ないのではないかと60.0%、長年使ってきた水道への愛着で60.2%、特にないで67.8%、その他で48.6%となり、他の回答では7割以上となる。



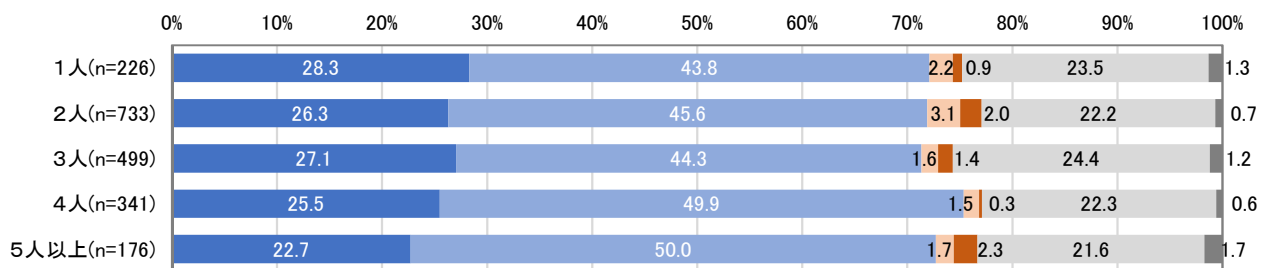
【利用している水道別集計】



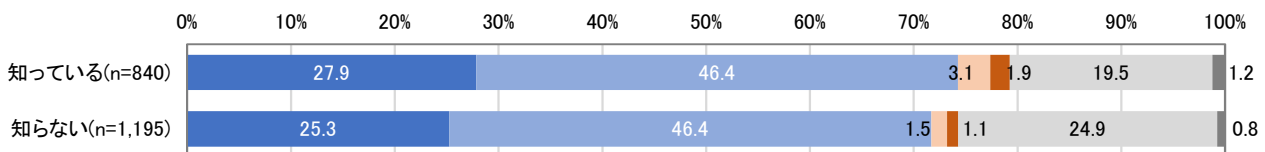
【年代別集計】



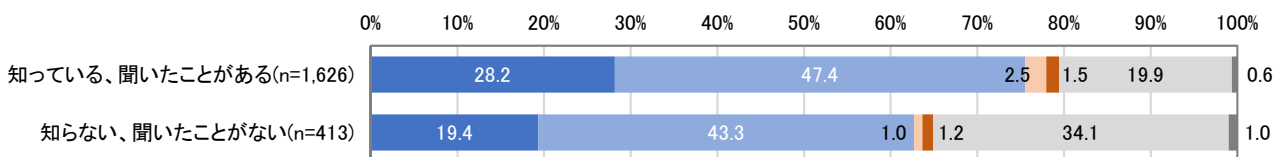
【世帯人数別集計】



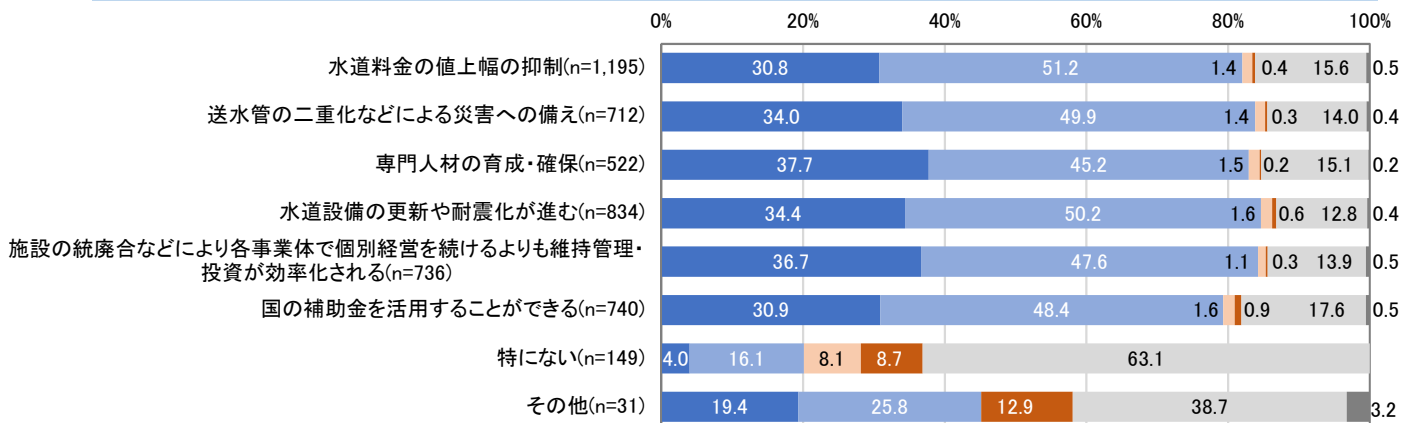
【水道水の水源についての認知別集計】



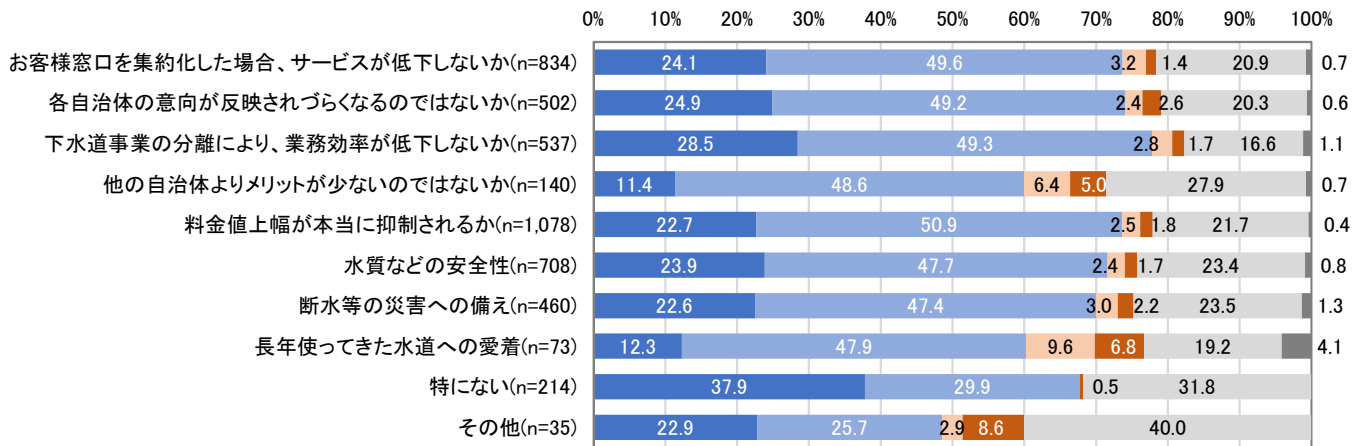
【老朽化による断水の発生についての認知別集計】



【広域化のメリット別集計】



## 【広域化への不安・課題別集計】

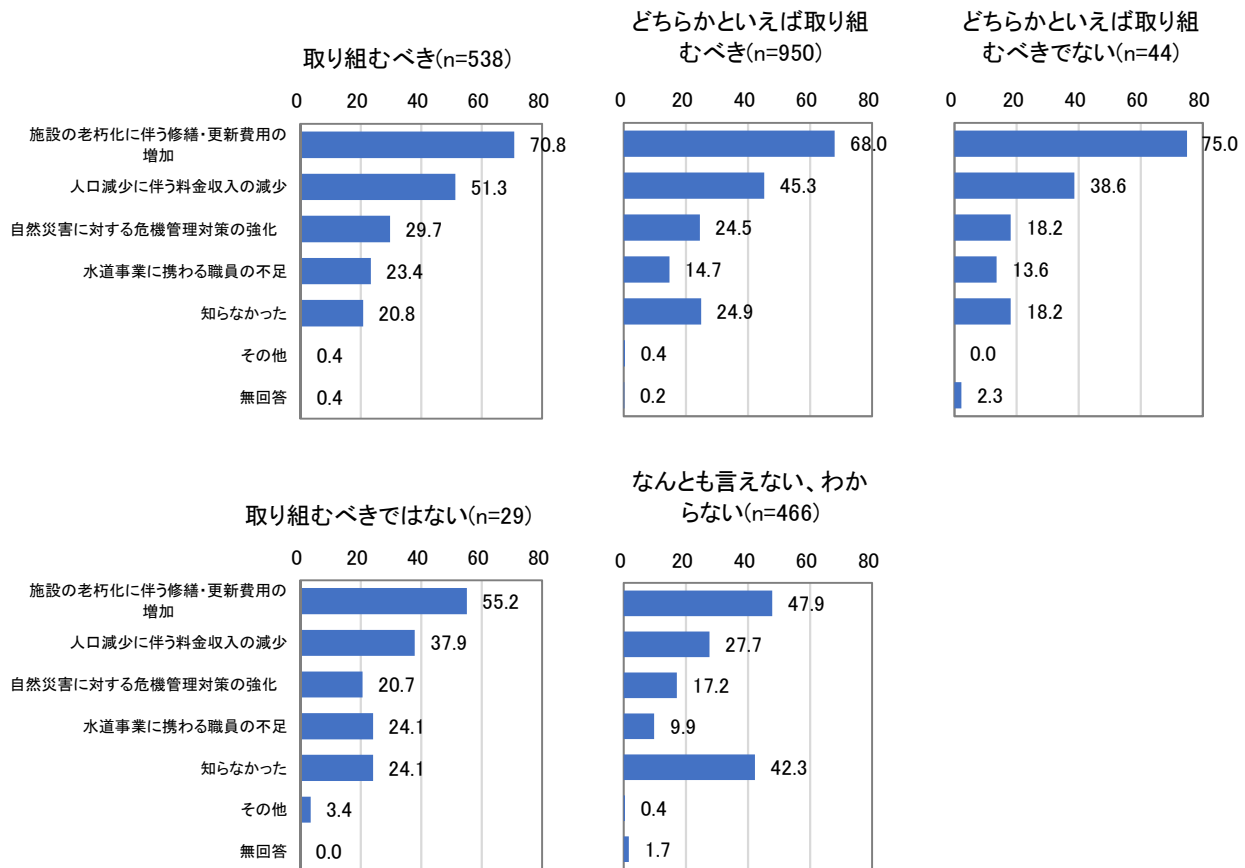


<広域化に対する考え方による、見方、考え方別の集計について>

広域化に対する考え方に基づいて、これまでの設問をみると、以下ようになる。

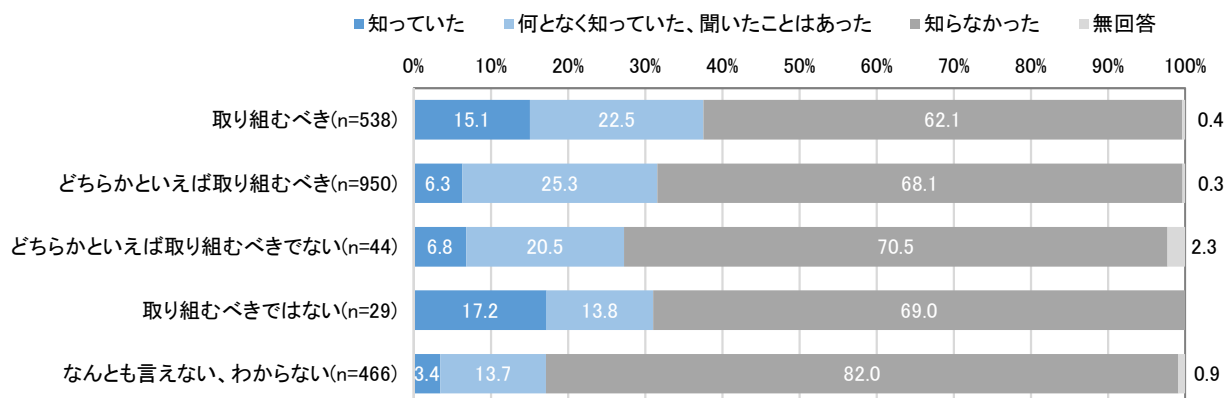
【水道事業の課題について】

広域化に対する考え方で、水道事業の課題の回答をみると、いずれも「施設の老朽化に伴う修繕・更新費用の増加」が最も多い。なんとも言えない、わからないでは、「知らなかった」(42.3%)が約4割と、他よりも高い割合となる。



【水道事業の広域化の検討について】

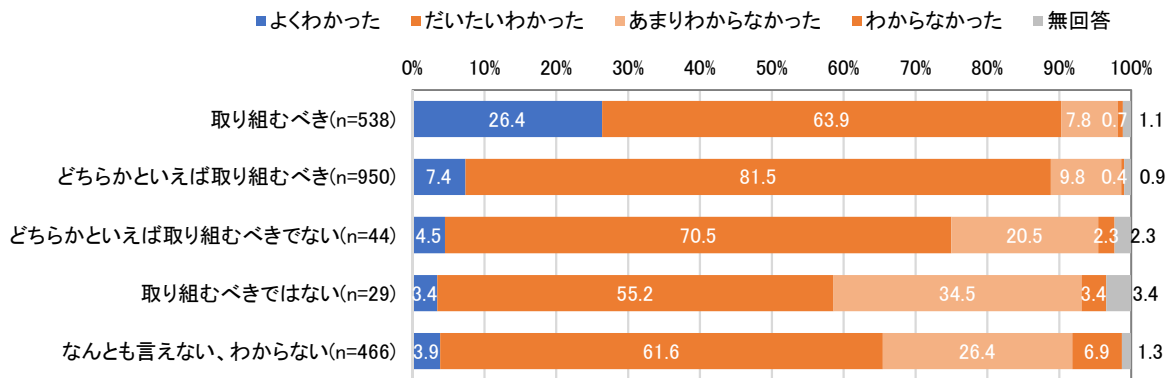
広域化に対する考え方で、水道事業の広域化の検討についての回答をみると、いずれも「知らなかった」が最も多い回答となる。なんとも言えない、わからないでは、「知らなかった」(82.0%)が約8割と、他よりも高い割合となり、「知っていた」、「何となく知っていた、聞いたことはあった」の合計は1割台と、他よりも低割合となる。





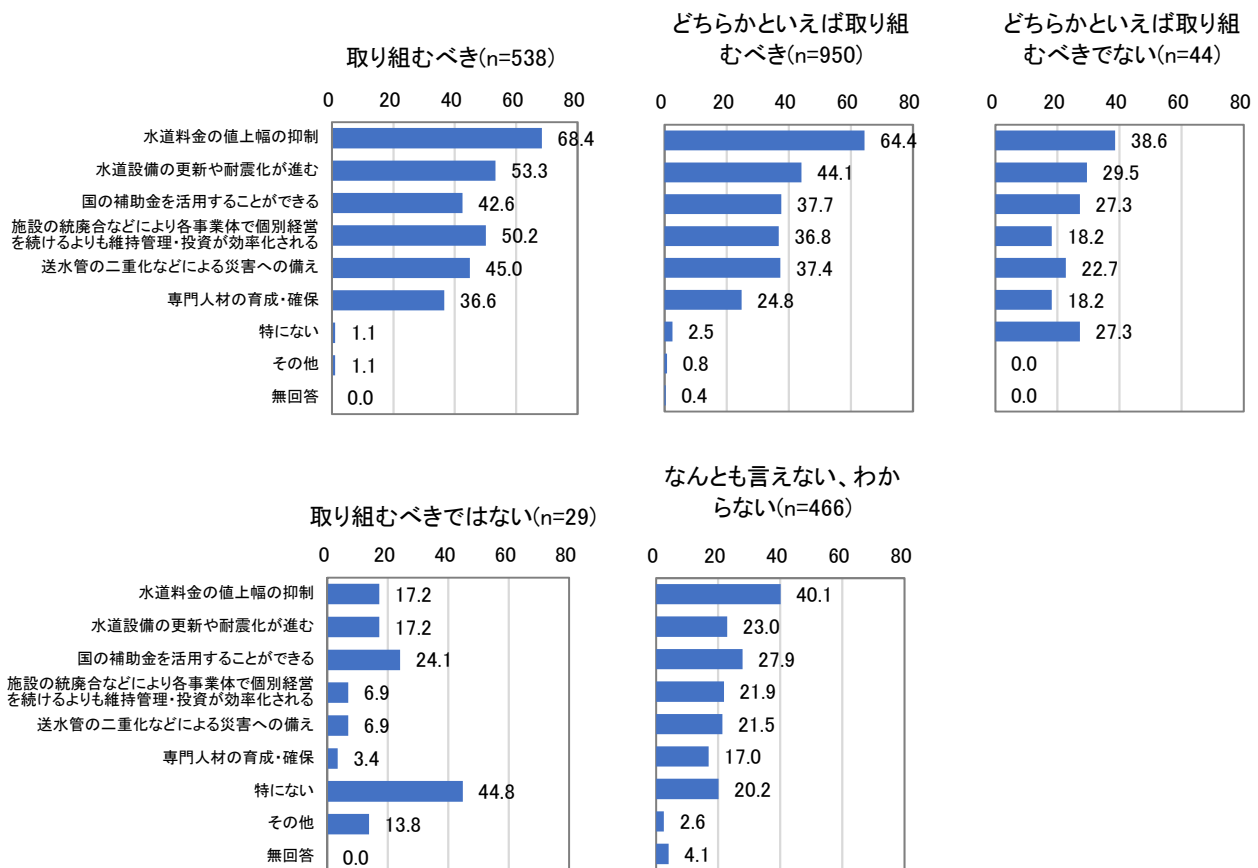
【添付資料の理解について】

広域化に対する考え方で、添付資料の理解についての回答をみると、いずれも「だいたいわかった」が最も多い。取り組むべきでは、「よくわかった」(26.4%)が約3割と、他よりも高い割合となっている。また、「よくわかった」、「だいたいわかった」の合計割合は、取り組むべき、どちらかといえば取り組むべきで約9割、どちらかといえば取り組むべきでないでは7割台、取り組むべきではない、なんとも言えない、わからないでは6割前後となる。



【水道事業広域化のメリットについて】

広域化に対する考え方で、水道事業広域化のメリットについての回答をみると、取り組むべき、どちらかといえば取り組むべきでは、「水道料金の値上幅の抑制」が6割を超え、最も多い。どちらかといえば取り組むべきでない、なんとも言えない、わからないでは、「水道料金の値上幅の抑制」が約4割で、取り組むべきではないでは、「特にない」(44.8%)が約4割で、最も多い。



## 【水道事業広域化の不安・課題について】

広域化に対する考え方で、水道事業広域化の不安・課題についての回答をみると、いずれも、「料金値上幅が本当に抑制されるか」が最も多い。どちらかといえば取り組むべきでないでは、「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」が同率で最も多い。一方、取り組むべきではないでは「各自治体の意向が反映されづらくなるのではないか」(44.8%)が、他では「お客様窓口を集約化した場合、サービスが低下しないか」が2番目に多い。

